

マイクロバルーンカテーテルを用いた母血管閉塞術の経験がある
患者さんまたはご家族の方へ
(臨床研究に対するご協力のお願い)

獨協医科大学埼玉医療センター脳神経外科では、上記の病気で獨協医科大学埼玉医療センター脳神経外科を受診された方の診療情報（カルテ情報）を使用し、臨床研究を実施しております。本研究に該当する可能性のある方のご協力をお願いいたします。この研究を実施することによる患者さんへの新たな負担は一切ありません。また、ご協力いただけない場合であっても今後の治療に不利益を受けることはありません。

本研究への協力を望まれない患者さんおよび本研究の詳しい内容（実施計画書・関連資料等）について閲覧になりたい方は、下記の【問い合わせ先】までご連絡をお願いします。

【研究課題名】

マイクロバルーンカテーテルを用いた short segment での母血管閉塞症例の検討

【研究の背景と目的】

巨大脳動脈瘤や紡錘状の脳動脈瘤はコイル塞栓のような従来の脳血管内治療では治療困難となり、病変となっている血管そのものを閉塞させる母血管閉塞術が必要になることがあります。母血管閉塞術は高い閉塞率が得られ、再発率が低い一方、脳梗塞のリスクが高いことが報告されています。穿通枝と呼ばれる正常な血管から分枝する細い血管を温存するため、我々は、できるだけ短い距離での母血管閉塞術を施行するためマイクロバルーンカテーテルを用いて脳血管内手術を行っています。しかしながら、マイクロバルーンカテーテルを用いた母血管閉塞術の治療成績に関する論文は少なく、十分な知見は得られていません。

今回の研究では、当施設におけるマイクロバルーンカテーテルを使用した母血管閉塞術を実施した方のカルテを使用して、治療の有効性と安全性を評価することを目的としております。

【対象となる方】

2020年1月から2023年4月の間にマイクロバルーンカテーテルを使用した母血管閉塞術を行なっている方です。

【使用する検体・診療情報】

使用する診療情報は以下のとおりです。なお、収集したデータは、研究責任者のもと適切に保管・管理致します。

性別、年齢、既往歴、脳動脈瘤最大径、術後30日までの合併症、術前および退院時の神経運動状態

【研究期間と参加予定人数】

この研究は臨床研究倫理審査委員会承認後、病院長許可日（2023年9月2日）から2024年9月30日まで実施され、全24名の患者さんが対象となっています。

【個人情報の保護】

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを特定出来る個人情報は削除し、収集されたデータは、個人が特定できないよう通し番号などで匿名化されたのち解析を行います。

また、使用した検体やカルテ情報を廃棄する際も個人情報を削除して廃棄いたします。

【結果の公表】

この研究の研究成果は2023年10月に開催される日本脳神経外科学会学術総会で中間発表予定です。また研究終了後に研究結果が学術誌へ投稿される予定ですがその際も患者さんを特定できる個人情報は公表いたしません。

【研究代表者】

獨協医科大学埼玉医療センター 脳神経外科 助教 河村洋介

【研究責任者】

獨協医科大学埼玉医療センター 脳神経外科 滝川知司（准教授）

【問い合わせ先】

埼玉県越谷市南越谷 2-1-50

獨協医科大学埼玉医療センター 脳神経外科 担当者：河村洋介（助教）

電話番号：048-965-8682（医局直通） 受付時間 9時～14時

以上